

## 令和 7 年度 学校評価の評価結果及び改善方策等について

### 1 令和 7 年度に向けた改善方策の実施結果について

令和 6 年度の学校関係者評価に基づき、松沢小が置かれている状況や世田谷区の教育ビジョン等を鑑み、以下を重点と設定し、教育活動を行った。

「キャリア・未来デザイン教育の実現」「教育DXの推進」「多様性を尊重しながら共に学び、共に育つ教育の推進」「地域社会と協働した教育の推進」「学校における働き方改革の推進」など、新しい時代に向けた教育への転換を図る。

- (1) カリキュラム・マネジメントを通じて、各教科等でキャリア教育を実施し、将来への夢や希望をもたせ、目標に向かって取り組もうとする意欲を育てるとともに、授業改善を行い、せたがや探究的な学びを推進する。
- (2) 「いじめ防止基本方針」に従い、いじめの予防や早期発見・対応を行う。
- (3) 一人一台のタブレット端末を、一人一人の興味・関心や理解度、学び方に応じた「個別最適な学び」を実現するためのツールとして活用する。
- (4) 肢体不自由学級、知的固定学級、特別支援教室拠点校併設のメリットを生かし、ユニバーサルデザインの授業や共生社会での自立を目指したインクルーシブ教育システムを構築し、特別支援教育の充実を図る。
- (5) 人権教育・生命尊重教育を推進し、多様性を尊重した学びや相手を大切にする態度を育成するなど、共生社会を生きるための基礎を培う。
- (6) 地域運営学校の機能を生かし、地域や保護者、企業等と連携したアウトソーシングを活用した体験型の授業を行う。
- (7) 児童と触れ合う時間を確保したり、ライフワークバランスを醸成したりするための働き方改革を推進する。
- (8) 教職員の指導力を高め、学校を支える人材としての育成を行うために、学校運営組織をOJTとするとともに校内研究や各種研修の活用を図る。

### 2 自己評価結果

別紙「令和 7 年度 自己評価結果」を参照

### 3 令和 8 年度の学校経営に向けて

「インクルーシブ教育の実現」など、新しい時代に向けた教育への転換を図る。

- (1) だれ一人取り残さない学校を目指し、共生社会の実現に向けたインクルーシブ教育の充実を図るとともに、子どもの多様性を尊重し、障がい、国籍、性別等に関わらず、すべての子どもが同じ環境で共に学ぶ教育を充実させる。
- (2) 教職員のチーム力を高め、教職員が輝く学校を目指し、ライフワークバランスの醸成や校務のDX化を進め、教職員の働き方改革に取り組む。
- (3) 探究的な学びを追求する学校を目指し、ICTを効果的に活用して、児童が主体的・探究的に学ぶ授業を推

進する。

- (4) 子どもの健康・体力向上に努め、体育学習の充実を図る。
- (5) 地域と共に子どもを育てる学校を目指し、地域の人や施設を活用した教育活動を積極的に行う。
- (6) 教職員の指導力を高め、学校を支える人材の育成を図るため、学校運営組織をOJTに活用するとともに校内研究や各種研修の充実を図る。